

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)関西ペイント名古屋事業所	階数	地上5F
建設地	みよし市	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条地域	平均居住人員	13人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	1,920時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年2月 予定	評価の実施日	2014年7月3日
敷地面積	1,099.44 m <sup>2</sup>	作成者	伊藤 みゆき
建築面積	616.11 m <sup>2</sup>	確認日	2014年7月10日
延床面積	2,414.38 m <sup>2</sup>	確認者	伊藤 みゆき



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 79%

③上記+②以外の 79%

④上記+ 79%

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.0

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.9

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.2

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.8</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td>28.1 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	28.1 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	28.1 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
- LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3 1 生物環境の保全と創出
- ④地域材の活用
- Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	果独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>								<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>								<b>3.0</b>
1.1 騒音								
1 室内騒音レベル								
2 設備騒音対策								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
<b>2 温熱環境</b>								<b>2.2</b>
2.1 室温制御								
1 室温								
2 負荷変動・遅延制御性								
3 外皮性能				外壁U=1.19W/(m <sup>2</sup> K)				
4 ゾーン別制御性								
5 温度・湿度制御								
6 個別制御								
7 時間外空調に対する配慮								
8 監視システム								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
<b>3 光・視環境</b>								<b>2.8</b>
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口				南面、東面に窓				
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 照明器具のグレア								
2 昼光制御								
3 織り込み対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
<b>4 空気環境</b>								<b>4.0</b>
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆又は、低VOCの建築材料のみ使用				
2 アスベスト対策								
3 タニカビ等								
4 レンオネラ対策								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4 結露計算								
4.3 運用管理								
1 CO <sub>2</sub> の監視								
2 喫煙の制御								
<b>Q2 サービス性能</b>								<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>								<b>3.1</b>
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性				執務スペース 10㎡/人以上を確保				
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観				事務室 天井高2.7m 南側全面に窓を設置				
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計				抗菌ビニル床タイルの採用、低汚染・高耐候性の外壁塗料を採用				
2 維持管理用機能の確保								
3 衛生管理業務								
<b>2 耐用性・信頼性</b>								<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震								
1 耐震性								
2 免震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								

2.4 信頼性				3.0	0.19			
1	空調・換気設備			1.0	0.20			
2	給排水・衛生設備		②	4.0	0.20			
3	電気設備			3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20			
5	通信・情報設備			4.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.5	0.29			3.5
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31			
1	階高のゆとり		②	5.0	1.00	3.0		
2	空間の形状・自由さ			-	-	3.0		
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性				2.8	0.38			
1	空調配管の更新性			2.0	0.17			
2	給排水管の更新性			3.0	0.17			
3	電気配線の更新性			3.0	0.11			
4	通信配線の更新性			3.0	0.11			
5	設備機器の更新性			3.0	0.22			
6	バックアップスペース			3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.9
1 生物環境の保全と創出		●	③	2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		●	④	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●	④	2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.6
1 建物の熱負荷抑制				4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化				4.0	0.30	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				4.0	-	-	-	
集合住宅の評価				3.9	-	-	-	
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
4.1	モニタリング			-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	1.00	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護				3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水			4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.9	0.63	-	-	2.9
2.1	材料使用量の削減			2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.25	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.21	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②	3.0	0.21	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材			-	0.25	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組	●		3.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22	-	-	3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用			5.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	-	-	-	
3	冷媒			3.0	1.00	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮			①	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮				2.3	0.33	-	-	2.3
2.1	大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	●		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	●		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1	騒音	●		3.0	0.33	-	-	
2	振動	●		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制			-	-	-	-	
2	砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制			3.0	1.00	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

# 重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-あいち2011年度追補版Ver.2 (E

(仮称)関西ペイント名古屋事業所 新事務厚生棟

■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2011 (bpi&bei) v.1.5\_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.8</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.0</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化  
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和  
重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>外壁全面に自社製品の高耐候性・耐汚染性の優れた光沢のある外壁塗料を塗布し、環境に配慮しながら、先進的な企業のイメージをアピールした。また、外皮性能の向上による空調負荷低減、緑地によるヒートアイランドの抑制など、環境負荷の低減に努める計画とした。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>主要室は自然採光が十分得られるよう積極的に窓を計画し、明るい室内空間とすると共に、複層ガラスを採用することにより、断熱性を高め、日射取得熱の削減を図る計画とした。また、内装材には、F☆☆☆☆又は、低VOCの建材を採用し、化学物質の汚染の防止に努めた。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>1人当たりの執務スペースを10㎡以上とし、ゆとりのある広さとした。また、主要な室の天井高さを2.7m以上とし、開放的な空間とした。事務室には、OAフロアを採用し、レイアウト変更に対応できるように配慮した。また、光ファイバー、メタルケーブルを敷設し、通信手段の多様化を図った。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>道路側の周辺敷地には、緑地を設け、ヒートアイランドの抑制に努めた。また、空調室外機は、GL+10m以上となる屋上に設置し、周辺の温熱環境に配慮した。周辺敷地周囲には、見通しの良いネットフェンスを設置し、防犯性・防災性に配慮した計画とした。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>外壁及び、屋根には、十分な断熱を施工するとともに、主要な室には、複層ガラスを採用し、外皮性能を高めた。またブラインドを設置して日射熱取得を抑制することにより、空調負荷を軽減する計画とした。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>超節水便器を採用し、節水に努める計画とした。床材には、エコマークを取得したビニル床材を採用した。また、空調は、COD=0の冷媒を採用し、大気汚染の防止に配慮した。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>外皮の断熱性の向上、日射取得熱の抑制等により、ライフサイクルCO2の排出量の削減に努める計画とした。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p> <p>建物の腰壁にはPC(プレキャストコンクリート)を採用し、廃棄物の削減と搬送エネルギーの低減を図る計画とした。</p>